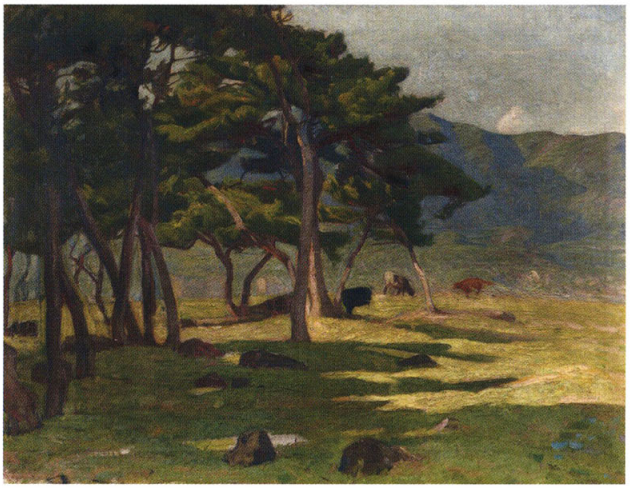
15. 巌



修理で発見された裏面の「風景」

巌（裏面：風景）　中村彝

1面
油彩・キャンバス
本紙　（巌）59.8×78.8　（風景）59.2×77.1
明治42年（1909）

明治42年の第３回文展で褒状を受賞した、中村彝（1887～1924）初期の代表作。この年の夏、写生旅行で訪れた千葉県白浜の海岸風景を描いたもので、岩塊の量感や堅牢な質感が見事に描き出され、力強い筆触には22歳の作者の若い勢いと個性の芽生えがうかがえる。中村はこの作品で受賞を果たして以降、文展で活躍、画壇にその名を知らしめた。昭和4年、水戸徳川家より献上された。

Massive rock (back side: Landscape)　By Nakamura Tsune

oil on canvas
Massive rock:59.8×78.8　Landscape:59.2×77.1
1909

The representative piece of Nakamura Tsune(1887-1924)'s early work, that received a prize at the 3rd Bunten(art exhibition sponsored by the Ministry of Education) in 1909. It is a scene of the shore at Shirahama, Chiba Prefecture, that the painter visited on a sketching trip in the summer of this year. The mass of the rock lumps and the solid texture is skillfully depicted, and the strong brushwork shows the beginning of the individuality and vigor of this young painter at 22 years of age. Since Nakamura won a prize with this piece, he became a famous painter actively exhibiting at Bunten. It was a gift from the Mito Tokugawa family in 1929.

新出！ —裏面からの発見

本作品は、経年による埃等の汚れの付着やワニスの黄変により、画面全体が濁った色調となっていた。さらにキャンバスの左辺が裂けており、それによるたわみも生じていた。このため亀裂の進行を食い止め、全体のクリーニングを行うことを目的として、平成24年度に修理を行った。当初の修理方針は、キャンバスを一度木枠から外し、補強のためにキャンバスの周囲に麻の布を接着する。特に木枠の左辺にあたる亀裂の生じている箇所は、他の部分よりも深めに補強の布を足して強度をもたせる。その上で変形を修正するためにキャンバスを仮枠に張り込み、またその状態で画面のクリーニング、わずかな欠損部の充填、補彩を施すというものであった。

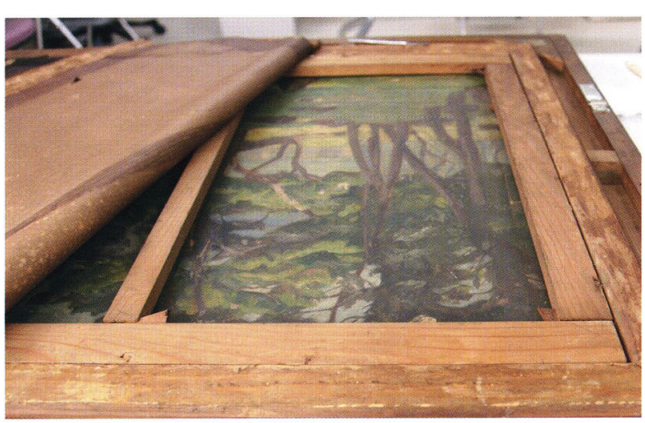
しかし、額裏全体を覆う形で貼られていた、当初からのものと思われる保護用の布を除去したところ、キャンバスの裏面に「巌」とは全く異なる油彩画が描かれていたことが判明した。現れたのはのどかな放牧の風景であり、松と思われる樹木が立ち並ぶ野原で、青空の下、三頭の牛が草を食んでいる。木々が地面に複雑な影を落とし、遠方には少し空気に霞んだ山並みが見える。サインがなくワニスも塗られていないが、ほぼ完成作と言えるほどの出来映えである。画風からしても、キャンバスの裏面に直接描かれている状況からしても、中村本人による作品と考えて間違いないだろう。中村は第３回文展に「巌」とともに「曇れる朝」と題した作品を出品しているが、残念ながら戦災により焼失してしまった。残された写真を見ると、裏面に描かれていたこの風景画は「曇れる朝」とやや似た雰囲気を持っていることが分かる。

油彩画では一度描いた絵を塗りつぶして、上から別の絵を描くことはあるが、このように表裏に描く例は大変珍しい。ちなみに「巌」と裏面の絵は天地が逆になっており、一度に両面を鑑賞するような意図で描かれたものでないことが分かる。キャンバスの織り目からすると本来の表面は裏に隠れていた絵の方であり、「巌」が描かれているのはキャンバスの裏地である。裏面の絵はキャンバスの表地にきちんと地塗りをした上で描かれているのに対し、「巌」は地塗りも施されていないキャンバスの裏地に描かれていたのである。つまり、制作順序としては裏に隠れていた絵の方が最初に通常通りキャンバスに描かれ、「巌」はその絵が描かれた後にキャンバスを裏返して描かれたと考えるのが妥当である。

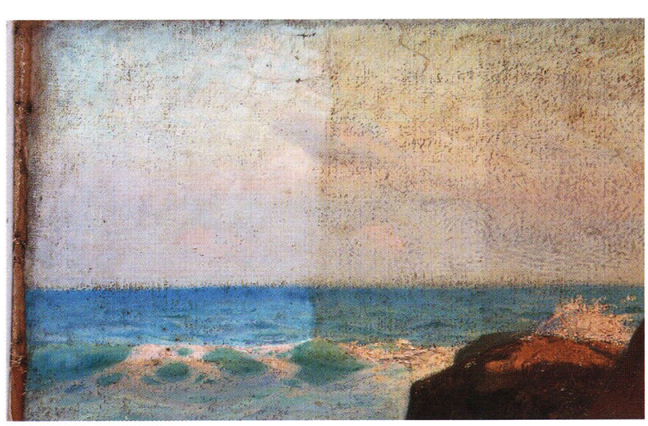
「巌」が千葉県白浜の写生旅行で描かれたことを考えると、おそらくこの裏面の絵もその旅行途中で出会った景色を描いたものと思われる。旅先ということで画材に限りがあったのだろう。「巌」の題材となる景色に中村が出会った時、おそらく手元にはもう無地のキャンバスは残されておらず、やむを得ず既に絵を描いてしまっていたキャンバスを木枠から外して裏返して張り直し、その場で一気呵成に描き上げたのではないだろうか。もちろん、細かな手直し等は後日行ったはずであるが、「巌」には確かに観る者に臨場感を感じさせるほどの迫力がある。目の粗いキャンバスの裏地に地塗りも施さずに描いたことで、岩塊の質感を表すのに適した、荒々しくも表情豊かなマチエールとなったことも、中村にはうれしい誤算だったかもしれない。

中村の初期の作例は現存するものが非常に少なく、一説によれば本人がほとんど燃やしてしまったとも言われている。そうした中で、この時期のほぼ完成作に近い絵が現れたことは、中村彝研究にとって非常に重要なことであり、なおかつ上記のような作者の制作態度を推察することができる点でも意義深いものと言えよう。

裏面の絵の発見により、表裏のどちらも鑑賞できるような木枠にキャンバスを張り込み、新たな額に納めた。また、黄変したワニスと全体の汚れがクリーニングで取り除かれた結果、空や海の部分からは予想以上に鮮やかな青色が現れ、沈んだ岩の色調と鮮やかな海と空という作者が意図したであろう対比がより明確になったことも、修理の大きな成果である。



修理途中に裏面に作品が確認できた時の様子



右半分が黄変したワニスのある状態、左半分はその除去後

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

開館20周年記念
美を伝えゆく —名品にみる20年の歩み—

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成25年10月12日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections, Japan

The 20th Anniversary Exhibition of the Sannomaru Shozokan
Passing Art works to the Future –The Museum's 20 Years of Research on Masterpieces–

Edited by the Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan
Produced by Tokyo Bijutsu Inc.
Translated by Hiroko Kurokawa
Published by Imperial Household Agency
Issued on October 12, 2013

© 2013, The Museum of the Imperial Collections, Japan